



飛驒の匠の祖「藤原宗安」
(大森旭堂筆)

くかにかくに物は思はじ飛驒
人の打つ墨繩のただ一道に
この「万葉集」の歌は、飛驒
の匠が墨繩で付けた一本の線
に、作者が自らの一途な恋心
を重ねたものです。万葉集が
つくられた奈良時代、すでに
飛驒の匠がよい腕を持った大
工としての代名詞であったこ
とが伺えます。

「飛驒の匠」の展示で一際目
を引く「藤原宗安画像」(掛け
軸・写真左)に描かれた藤原宗
安は、飛驒の匠の祖といわれ、
前述の歌に似た歌が書かれて
います。
飛驒の匠と聞いて養老2年
(718)に制定された「賦役
令」(斐陀国条を思い浮かべる
方もいると思います。これは

まち博名品展 「花・鳥・名所～屏風の美～」 展示替えのお知らせ

現在開催中の特別展の展示物
を入れ替えました。今回新たに展示し
たのは、河内豊隣画「花鳥凶屏風」、
山岡鉄舟筆「いろは書屏風」などです。
郷土ゆかりの文人画人による作
品をお楽しみください。

期日 10月16日(日)まで

今月の市営空町駐車場特定日 9月17日(土)～18日(日) 9月23日(金・祝)～24日(土)

通常、まち博をご利用の市民のみな
さんには、2時間までの駐車場無料処
理をしますが、この期間は午後5時ま
で無料処理を行いません。

問合先
まちの博物館
321205

税の一部を免除する代わり
に、匠丁を里ごとに10人(飛驒
全体で100人程度か)を差し出
すことを定めたもの(その任
期は1年で、全国でも飛驒特
有の労務負担でした。
ここからも、この時代から
飛驒の匠が全国に有名で、そ
の卓越した技を国家が求めて
いたと推測できます。
現在、飛驒の匠の末裔であ
ることの誇りが技術を磨き、
さらに有名になり、全国から
も職人が集まるようになって
います。今の飛驒の匠の誇り
は遙か1200年以上も昔か
ら受け継がれているのです。
高山の祭屋台の美しさや、
吉島家、日下部家の建築技術、
今も守られている伝統的な町
並の木造建築、さかのぼれば
平城京、平安京の建設へとつ
ながっていく飛驒の匠の物
語。
その壮大な歴史の流れの入
口となる、そんな思いで博物
館へ足を向けてください。

人の魅力、まちの魅力、高山の魅力 第三章 飛驒の匠



まち博へ 行こう

飛驒高山
まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛驒高
山まちの博物館」
その収蔵品を紐解くと、現在に生きる
わたしたちと過去の先人たちとの、刻を
超えた出会いが待っています。
広報たかやまでは、収蔵品とそれにま
つわるエピソードを紹介していきます。

久々野町に地ビール誕生! 「林檎lala」



ひだ桃源郷くぐの観光協会や果実出荷組合では、年間を通じた地元のりんごの特産品ができないかと商品開発に取り組んでおり、このたび試作を重ねてきた「りんごの地ビール」が完成しました。

ビールの苦みを抑え、りんごのさわやかさと甘さが特徴で、お酒の苦手な方にも飲みやすいように工夫されています。

道の駅なぎさや久々野町内の酒店で取扱中ですので、ぜひ一度ご賞味ください。

問合先 ひだ桃源郷くぐの観光協会
52-2270